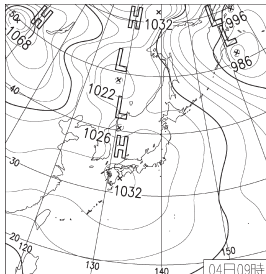


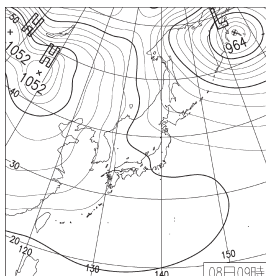
日々の天気図

— No. 204
2019年1月

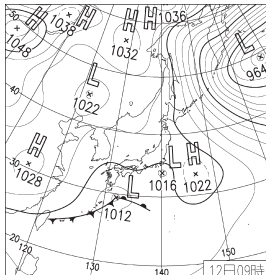
- ・1日, 南シナ海で台風第1号発生。元日の台風発生は統計開始以来初。
- ・3日, 熊本県和水町で震度6弱。26日にも震度5弱。
- ・15~16日, 低気圧発達し北海道で暴風。停電やフェリー欠航相次ぐ。
- ・中旬後半以降, カナダから米国北部で記録的寒波。死者も。(気象庁予報部予報課)



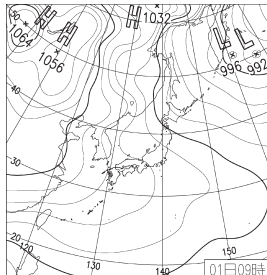
4日(金)夜には次第に気圧の谷
12月27日から続いた冬型気圧配置は緩む。夜には華南~東シナ海で前線が発生, また日本海~北海道付近を低気圧が進む。沖縄・奄美や日本海側の所々で雨や雪。下関で初氷。



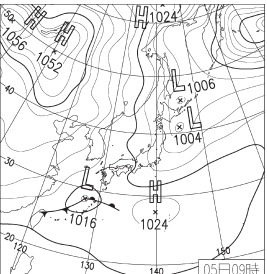
8日(火)鹿児島県で震度4
東~北日本を気圧の谷が通過し夜は冬型気圧配置。北陸中心に雨や雪, 新潟県大潟の日降水量83.5mmは1月極値。西日本中心に最高気温は3月並。水戸市, 彦根市ツバキ開花。



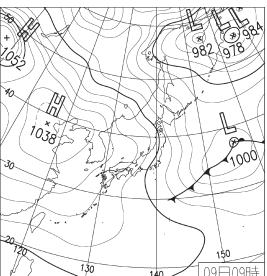
12日(土)東京で初雪を観測
前線を伴った低気圧が日本の南を東進。またこれとは別に, 関東の南で低気圧が発生。沖縄・奄美~九州・四国を中心に雨, 関東南部では雪も。沖縄県下地54mm/1hは1月1位の値。



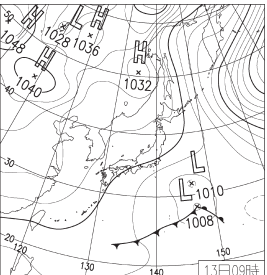
1日(火)元日に台風第1号発生
冬型の気圧配置で山陰~北日本の日本海側は雪や雨。九州や沖縄は寒気の影響で曇り。その他は概ね晴れ。西日本~東日本では最低気温が平年より6°C以上低い所も。徳島で初氷。



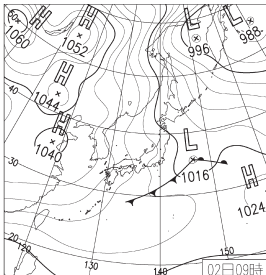
5日(土)再び冬型の気圧配置へ
北日本と南西諸島を低気圧や前線が通過し, 次第に冬型の気圧配置が強まる。関東や沖縄を中心に日中は気温が上がり, 最高気温が平年より6°C以上高く4月並の所も。



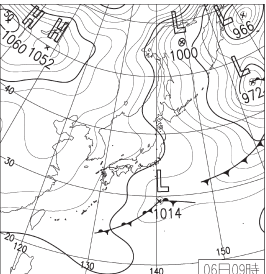
9日(水)新潟長野県境で大雪
強い冬型の気圧配置が西から緩んだ。沖縄・奄美や西日本から北日本の日本海側は雨や雪, 太平洋側は晴れ。12時間降雪量の最大値は新潟県関山64cm, 長野県野沢温泉54cm。



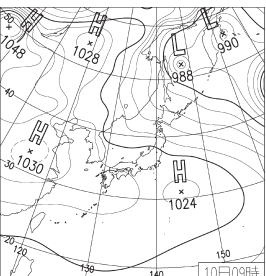
13日(日)石垣市でウメ開花
前日, 関東南部に雪を降らせた低気圧は日本の東へ。日本付近は冬型の気圧配置となったが寒気の流入は弱く日本海側も晴れの所が。北海道江丹別では最低気温-29.5°C。



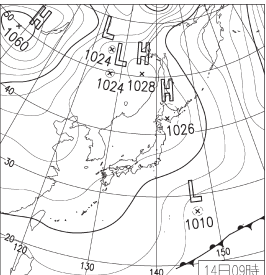
2日(水)冬型の気圧配置が続く
山陰以北の日本海側を中心に雪や雨。新潟県津南で日降雪量30cm, 太平洋側でも, 東日本~東北部で晴れた他は曇りが広がった。沖縄・奄美は寒気や湿った空気の影響で曇りや雨。



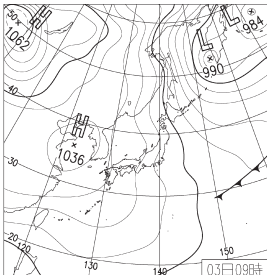
6日(日)午前中に部分日食
冬型の気圧配置で西日本~北日本の日本海側は雪や雨。沖縄は寒気の影響で曇りや雨。その他は晴れや曇り。最高気温が平年より5°C以上低い所も。東日本を中心に寒い寒の入り。



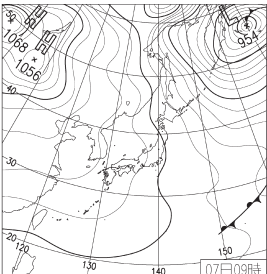
10日(木)福岡市でウメ開花
西~東日本には高気圧が張り出し, 早朝の放射冷却により長野県吾平で-23.9°C。北日本では冬型が続き, 北海道でも岬で41.2m/sの最大瞬間風速。那覇市でヒカンザクラ開花。



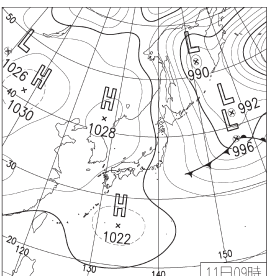
14日(月)おだやかな成人の日
日本海の高気圧が東に移動し日本付近を広く覆い, 寒気の影響を受けた北陸や北日本日本海側などを除き概ね晴れ。最高気温は沖縄・奄美や西日本で3月並。茨城県で震度4。



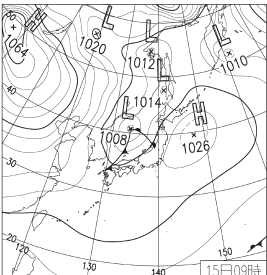
3日(木)熊本県で震度6弱
冬型の気圧配置続き山陰~北日本は日本海側で雨や雪。沖縄・奄美も曇りや雨が続き。その他は晴れて, 九州各地の最低気温は最も寒い時期を下回り福岡で初氷, 鹿児島で初霜。



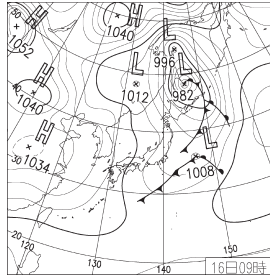
7日(月)冬型は次第に緩む
日本海側を中心とした雨や雪は, 東~北日本にとどまる。九州北部や西~北日本太平洋側は概ね晴れだが, 東北では湿った空気の影響で曇りや雪の所も。宮古島市でヒカンザクラ開花。



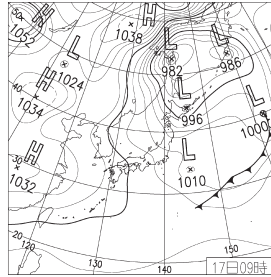
11日(金)沖縄で気温上昇
寒気の影響により山陰から北の日本海側は曇りや雨。九州や沖縄は気圧の谷の接近で雨の所も。その他は概ね晴れ。先島諸島は軒並み夏日で4月下旬から5月上旬の気温。



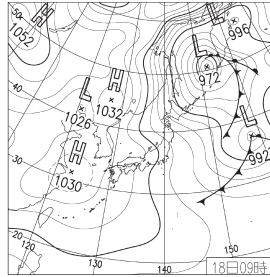
15日(火)北海道は大荒れに
日本海低気圧が前線を伴い, 急速に発達しながら北海道に接近。西日本~北日本は西から天気が崩れる。沖縄・奄美も気圧の谷となり雨。北海道焼尻で最大風速22.4m/s。



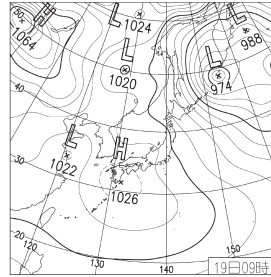
16日(水)宗谷岬で猛烈な風
 冬型の気圧配置で山陰から北の日本海側は概ね雪、沖繩・奄美は所々雨。九州や四国～北日本の太平洋側は晴れや曇り。北海道宗谷岬の最大風速32.2 m/sは史上1位。甲府で初雪。



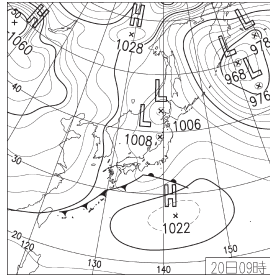
17日(木)北海道は暴風雪
 強い冬型気圧配置で北海道の上空約1500 mに-21°C以下の寒気流入。北海道えりも岬で最大瞬間風速37.9 m/s、山陰以北の日本海側を中心に雪や雨。山形県肘折で日降雪量47 cm。



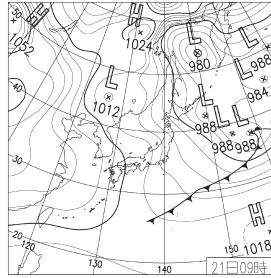
18日(金)冬型の気圧配置続く
 山陰から北の日本海側は雪や雨、太平洋側は概ね晴れ。九州や沖繩は東シナ海の高気圧に覆われ晴れ。青森県酸ヶ湯で日降雪量52 cm。佐賀市、下関市、名古屋市でウメ開花。



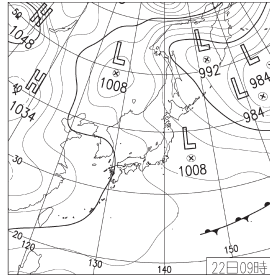
19日(土)西から天気下り坂
 西日本の高気圧は日本の南へ移動。夕方以降、西から天気の谷が接近。寒気の影響が残った北陸以北の日本海側を除き広く晴れたが、午後は西から曇り、九州の一部は夜には雨も。



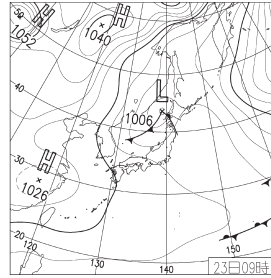
20日(日)気圧の谷通過
 低気圧や前線の影響で、関東地方を除き西～北日本の広い範囲で曇りや雨または雪。西～東日本では暖かい空気が入り、横浜で最高気温が16.3°Cなど4月上旬並の気温の所も。



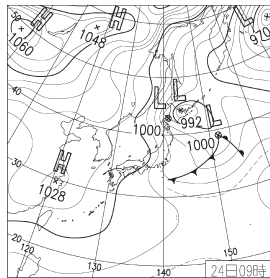
21日(月)冬型の気圧配置強まる
 北海道の上空約5000 mには-42°C以下の寒気が流入。山陰から北の日本海側は雪や雨、北日本の太平洋側でも所々で雪。沖繩は寒気の影響で曇りや雨。東京でウメ開花。



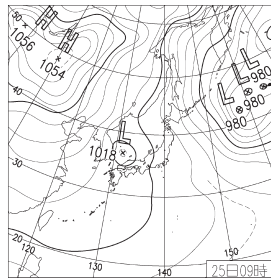
22日(火)冬型気圧配置緩む
 夜は華中を中心に持つ高気圧に覆われる。山陰以北の日本海側中心に雨や雪。太平洋側や九州北部は概ね晴れ。沖繩・奄美は寒気の影響で曇りや雨。銚子市でカエデ落葉、最晩記録。



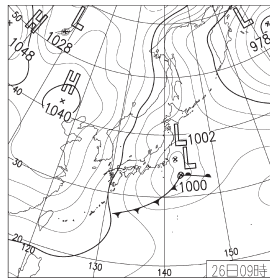
23日(水)寒冷前線が本州を南下
 前線を伴った低気圧が日本海北部を北上。山陰～北陸と北日本は次第に雨や雪、その他は概ね晴れ。全国的に気温上昇、西日本で最高気温4月上旬並の所も。名瀬市でヒカンザクラ開花。



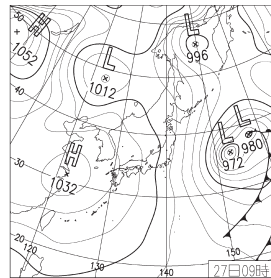
24日(木)北日本は暴風雪
 低気圧が北海道付近を東に進み、冬型気圧配置が強まる。北海道では、えりも岬で最大瞬間風速29.8 m/s、滝上で日降雪量51 cm。宮城県駒ノ湯の最深積雪132 cmは1月1位の値。



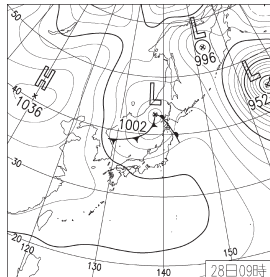
25日(金)南大東村でヒカンザクラ開花
 本州付近は冬型気圧配置が緩み、日本海西部に低気圧発生、東に進む。山陰から北海道にかけての日本海側で雨や雪、その他の地方は概ね晴れ。那覇市でウメ、大分市でツバキ開花。



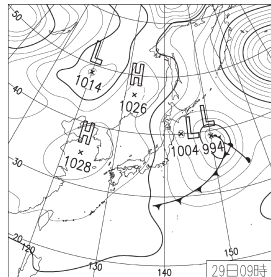
26日(土)九州や関東で初雪
 冬型気圧配置強まり西～北日本の日本海側は概ね雪、太平洋側でも所々で雪や雨。広島県八幡と岐阜県白川で日降雪量47 cm。大分、横浜、銚子、水戸で初雪。熊本県で震度5弱。



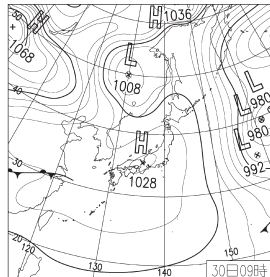
27日(日)京都で7cmの積雪
 午後は冬型の気圧配置が緩み、夜には高気圧の中が東シナ海へ移動。本州の日本海側を中心に雪や雨だが、日中は次第にやむ。沖繩・奄美も寒気の影響で曇り。その他は概ね晴れ。



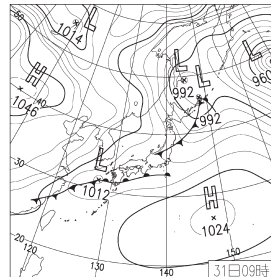
28日(月)熊本市でウメ開花
 前線を伴った低気圧が日本海を東進し、寒冷前線が本州付近を南下。日本海側中心に雪や雨でその他は曇りまたは晴れ。南西諸島は大陸の高気圧が張り出し概ね晴れ。



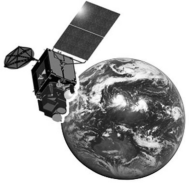
29日(火)東北は暴風雪
 北日本は冬型気圧配置が強まり、秋田県八森の最大風速24.5 m/sは1月の記録更新。寒気が入った関東北部や中国～近畿、東海の一部も雪。網走で平年より4日早い流水接岸初日。



30日(水)広島市でウメ開花
 日本列島は高気圧に覆われ、穏やかに晴れた所が多い。早朝の放射冷却により北海道生田原で-27.5°C。夜には下り坂となり曇りや雨、雪の所も。水戸市でスイセン開花。

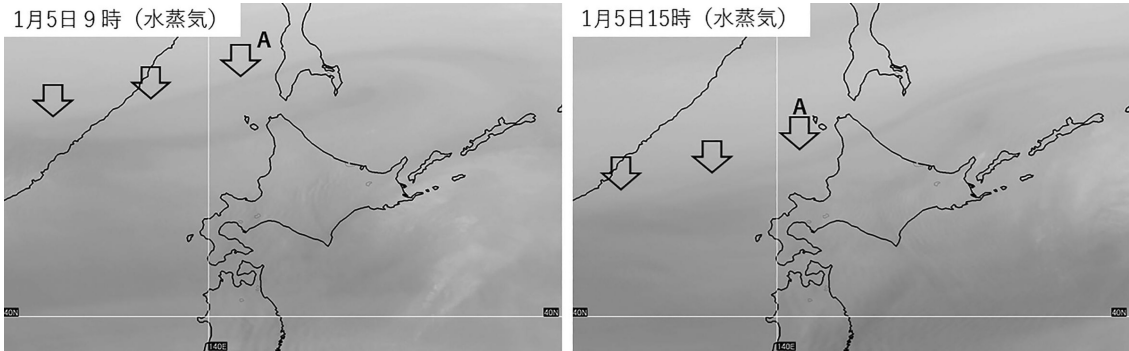


31日(木)関東の平野部で夜に雪
 九州付近の低気圧や前線の影響で、西日本～東日本は雨や雪。北日本はオホーツク海の低気圧からのびる寒冷前線が通過し、日本海側を中心に雪でふぶきの所も。水戸で積雪3 cm。

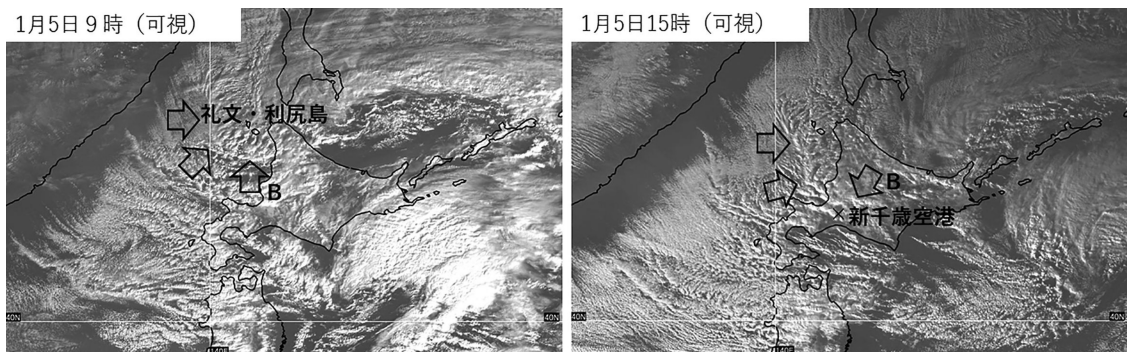


今月のひまわり画像—2019年1月

新千歳空港に大雪をもたらした対流雲列



第1図 2019年1月5日9時（日本時間）（左）と15時（右）の北海道付近の水蒸気画像，記号は本文参照。



第2図 2019年1月5日9時（左）と15時（右）の北海道付近の可視画像，記号は本文参照。

2019年1月5日から6日にかけて、オホーツク海と津軽海峡付近の低気圧がそれぞれ東に進み、日本付近は冬型の気圧配置となった。新千歳空港では、5日夕方から夜にかけて大雪となり、5日の1日間で105便が欠航したため、約2000名の乗客が空港で一晩を過ごす事態となった。今回はこのときの状況を衛星画像で振り返ってみたい。

第1図（左）は5日9時の水蒸気画像である。サハラ南部から沿海州にかけて、500 hPaの5160～5280 mのトラフ（気圧の谷）に対応する暗域（矢印A）がみられた。第1図（右）は同日15時の水蒸気画像である。第1図（左）の矢印Aの暗域は、約25ノット（1ノット≒0.51 m/s）で南南東へ進み、この時刻には北海道西方海上から北海道北部に達していた。第2図（左）は5日9時の可視画像である。宗谷海峡付近の下層（850 hPa）には北北東の風と北北西の風のシアがあり、このシアの南にあたる礼文・利尻島の南西から天塩町付近にかけては、低気圧性曲率をもつ

た周囲より雲頂高度が高い（約4000 m）対流雲を伴う雲域（矢印B）が現れた。第2図（右）は同日15時の可視画像である。このやや発達した対流雲を伴う雲域の東端（矢印B）は、約10ノットの速度で南下を続け、17時頃には新千歳空港付近に到達した。新千歳空港では18時までの1時間で8 cmとなる降雪を観測し、その後も断続的に強い雪が降り、17時から22時までの降雪量は20 cmに達した。

水蒸気画像の境界（第1図の矢印）は時間の経過とともにその曲率が増していることから、上層のトラフは蛇行の程度を深めながら日本海北部～北海道付近を南東進していったものと推測される。この上層トラフの移動に合わせて宗谷海峡付近にあった下層シアによる発達した対流雲が北海道の日本海沿岸を南下していき、新千歳空港に大雪をもたらしたものと考えられる。

（気象庁予報部予報課 野中信英）